

16日 木曜

箴言

17:13 善に代えて悪を返すなら、その者の家から悪は離れない。

17:14 口論の始まりは水が吹き出すようなもの。争い事が起こらないうちにやめよ。

17:15 悪しき者を正しいとする者、正しい人を悪いとする者、【主】はこの両者を忌み嫌われる。

17:16 愚かな者が良識もないのに、知恵を買おうとして、手に代金を持っている。これはどうしたことか。

17:17 友はどんなときにも愛するもの。兄弟は苦難を分け合うために生まれる。

17:18 良識のない人は、すぐ誓約をし、隣人の前で保証人となる。

17:19 背きの罪を愛する者はけんかを愛する。自分の門を高くする者は破滅を求める。

17:20 心の曲がった者は幸いを見つけない。二枚舌の者はわざわいに陥る。

17:21 愚かな者を生む者には悲しみがあり、愚か者の父には喜びがない。

17:22 喜んでいいる心は健康を良くし、打ちひしがれた霊は骨を枯らす。

17:23 悪しき者は人の懐から賄賂を受け取り、さばきの道を曲げる。

17:24 悟りのある者はその顔を知恵に向け、愚かな者は目を地の果てに注ぐ。

17:25 愚かな子はその父の憂い、これを産んだ母の痛み。

17:26 正しい人に罰金を科すことが良いことでないなら、高貴な人を実直さゆえに打つのは、なおのこと。

17:27 ことばを控える人は知識を持つ者。霊において冷静な人は英知のある者。



17:28 愚か者でも黙っていれば、知恵のある者と思われ、その唇を閉じていれば、分別のある者と思われる。

「善に代えて悪を返す」などとは、自分はないだろうと思いますが、親切に対してうつつしいなどという反応はしてしまうかも知れないので注意が必要です。口論も気を付けないと、思いがけない争いになりますから注意しましょう。

友や兄弟がいることは幸いです。「どんなときにも愛」するのだと心に決めましょう。「苦難」も分けてもらいましょう。幸いな人生になります。

一時の人情や自負心で「誓約」や「保証」をすることは、人を神のように信じてしまうようなものです。信頼できるは神様だけであることを銘記しましょう。むしろ神の愛で愛しましょう。

「背く」ことでうまく出し抜いて成功しようとしても、その結果は「けんか」でありトラブルです。どこまでも誠実でありましょう。「門を高く」するとは高慢を意味するようです。自分を良く見せようすると、足元をすくわれて最悪の場合は「破滅」となります。

また人は自分を守ろうとして「二枚舌」を使いますが、結果は逆で、守るどころかわざわいとなります。やはり誠実な者が主に祝福されるのです。

ことばにおいて慎重でありましょう。特に感情にながされずに「冷静」であることは「英知」が働く条件です。仮に英知がなくても、「分別のある」人と思わるから、得です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

